

技術・家庭科部門

☆ 総評 ☆

今年の傾向としては、実際に調べたことを実践してみるといったものが多くなり、甲乙つけ難い優れた作品が目立ちました。テーマ選択や内容に関しても、自身に結びつけ、自分の問題としてとらえているものが多くなってきました。ただ、レポートにまとめるときには、その動機や過程、結果はもちろん、「全体を通してのまとめ」がとても重要です。自分らしく、わかりやすい表現方法を工夫してみると、よりすばらしい作品となるでしょう。

次回も、実生活に基づいた、数多くの作品応募があることを大いに期待します。

文部大臣奨励賞

「身近な環境問題パートII」

岐阜県組合立境川中学校
二年 則武 真紀子



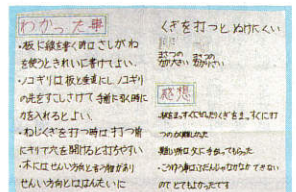
身近な問題を取り上げ、地域や生活に密着している点が高く評価されました。いろんなところに行つて、研究の基本である「調べる・確かめる・まとめる」を実践していると言えます。また、古着を利用してスカートや手さげ袋を、タイヤを利用してプラントナーを作るなどリサイクル製作にも挑戦しています。技術・家庭科の両方から考察した作品です。

環境問題について取り組んだ時間をかけた作品です。昨年の研究に続き、今年はさらにその解決方法へと発展させたようです。

身近な問題として「ゴミ」をテーマに掲げ、そのゆくえから減量方法、リサイクルへと迫っています。ゴミのゆくえについては、チリ紙回収会社の人や、役場の人、親せきの人々へも積極的に話を聞いています。そしてゴミの減量の大切さに気づき、どうしたらゴミを減らすことができるのか実験しています。燃えるゴミは燃やし、かさを減らせるものは減らし、生ゴミは手を加えて土にかなすなど、いろいろ工夫をした結果、ゴミは意識すれば減量できることがわかりました。まとめ方に関しても、新聞の切り抜きやゴミの写真などがとても効果的に使われています。



優秀賞



（「カギかけbox」 東京都府中市立府中第一小6年 菱村知加子）

よくカギをなくしてしまおうの...という実用性に基づいて製作された作品です。木で箱を作るのは意外に難しいのですがこの作品は、薄い板にも正確にカギが打たれ、カンナやサンドペーパーを駆使し、とてもいいねいな仕上がりになっています。製作過程を記録した模造紙にも工夫した点や、気づいた点などが書かれています。

五年生で習う、なみぬいの基本を応用させた、見た目にも楽しい作品です。ミシンぬいや手ぬいのぬい目がとてもきれいで、根気強さを感じます。デザイン的には、ポケットの部分をもっと目立つように工夫してみると、なお良かったと思います。レポートについては、生地や、写真などが添えられ、製作の過程をわかりやすくまとめています。



（「パッチワークのかべかけ」 大阪府吹田市立江坂大池小5年 片山千裕）



（「保育園について」 岐阜県組合立境川中3年 小川晶子）

その他の受賞作品

- ◆優良賞 「科目おしえ機（新宿区立立落合第四小五年） 山田和幸
奥村明浩 「お弁当作り 調べ」（美濃市立大矢田小五年） 宮本真実
年） 太田秀雄 「ベッドカバー」（岐阜市立立長良西小六年） 加藤昌子
- ◆佳作 「ビンホールのカメラ」（港区立立白金小五年） 森部嘉代子
佐々木栄利紗 「安全な食品を作ろう」（柳津町立柳津小五年） 伊藤あゆみ
羽根真粧美 「こうなかキヤットのリュック」（岐阜市立立長良西小五年） 山根有希子
ク（杉並区立高井戸小六年） 尾崎亜矢可 「小麦粉のひみつ」（柳津町立柳津小六年） 服部有香
「食事づくり」（各務原市立蘇原第一小六年） 水野奈央子
森歩